

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

佐賀県 吉野ヶ里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	0.43	3,610	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
16,221	43.99	368.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
69	0.21	328.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



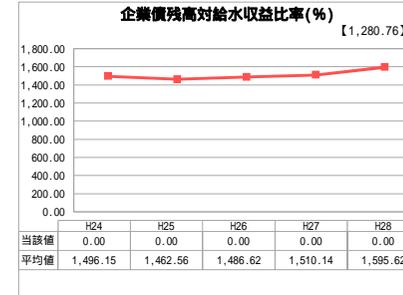
「単年度の収支」



「累積欠損」



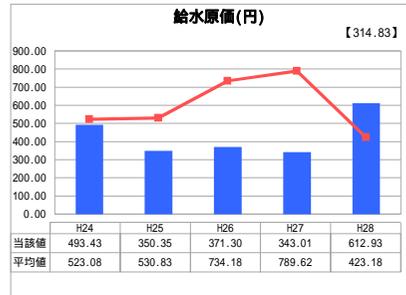
「支払能力」



「債務残高」



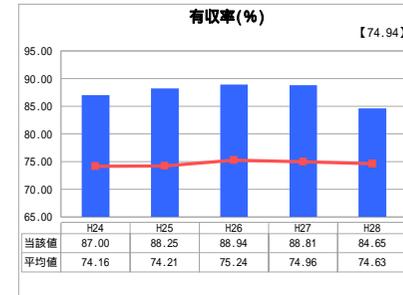
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

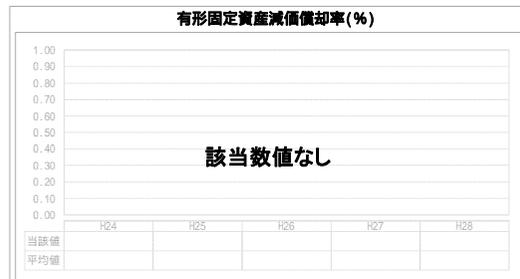


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

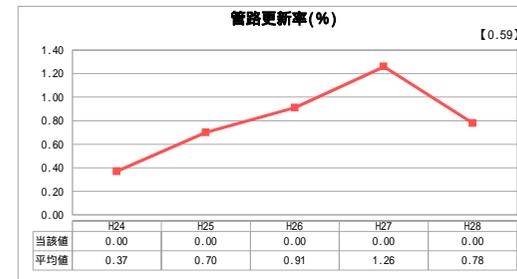
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率は100%前後の数値で推移しているが、常に100%を上回るため、経営改善に努める必要がある。

・料金回収率については、類団平均値を下回っており、給水収入以外の収入(繰入金)で賄われている。必要に応じて料金の見直しを検討し、経営安定に努める必要がある。

・給水原価については、給水人口の減により、年間総収水量が減少し、原価が高くなった。今後、老朽化による施設の改修を予定しているため、効率的に事業を進める必要がある。

・施設利用率についても給水人口の減などにより10.5ポイント低くなった。同じく、有収率についても4.1ポイント低くなり、現状の料金の見直し等を検討する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

・簡易水道事業を開始して34年ほどが経過している。これまで道路改良に伴う本管の一部改修、取水口の改修は行ったものの、老朽化による改修は行っていない。今後、大規模な改修が必要になると見込まれる。

## 全体総括

・管路更新については10年以内を目標に管路更新計画を作成し、計画的な改修を行う必要がある。

・水道事業の安定運営、事業継続のため、給水人口が100名以下であるので、飲料水供給施設に変更し、一般会計で管理することも検討する。